

東洋大学国際哲学研究センター2020年度研究成果概要

研究プロジェクトの概要

研究センターの目的

本センターは、伝統的な哲学研究に中心軸を据えつつも、変容を早める科学技術や国際情勢に正対し、東洋大学の創設者である井上円了が志したように、哲学的活動とその成果をこれからの社会に還元させることを目指しています。哲学研究という営み自体を反省する一方で、芸術、医療、工学といった多分野との学際的交流を通じ、社会からの哲学に対する潜在的な期待や要請を把握することで、次世代に向けた哲学のあり方を広く提案します。

研究センターの活動

本センターは「哲学・哲学史」「環境」「情報技術」の3グループから成ります。哲学・哲学史グループは、哲学研究を遂行しながら、その研究方法自体を批判的に検討します。環境グループは、最先端の知見がもたらす多様な「環境」概念から把握される新たな人間像を析出します。情報技術グループは、ロボットやAIの社会実装に必要な倫理的設計デザインの枠組みを模索します。

研究センターの展開

各グループの研究成果を社会に還元するために、シンポジウムやワークショップを開催していきます。また、そのような活動を通じ、これからの社会において哲学が扱うべき課題を共有し、より有意義で実りある研究成果を発信していきます。

2020年度活動一覧

2020年

- 7月31日、8月2日 RISTEX/HITE「自律機械と市民をつなぐ責任概念の策定」、及びJSPS課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業「工学・脳科学をエビデンスとした社会的基盤概念と価値の創生」主催（国際哲学研究センター共催）、オンライン研究会「人と機械の協働を考える」（第10回RSIS研究会）
- 8月1日 国際哲学研究センター、東洋大学大学院文学研究科哲学専攻共催研究会：伊藤俊介（東洋大学大学院博士前期課程）「統握—統握内容図式から見たフッサール志向性理論の変遷」、木村真由子（東洋大学大学院博士前期課程）「『確実性の問題』における「間違い」について」、小高郁哉（東洋大学大学院博士前期課程）「マクタガート時間論におけるB系列の地位」
- 8月8日 国際哲学研究センター主催「事象の世界地図に向けて」第1回研究会
- 10月9日～11日 視察「佐渡島文化圏」、参加者：河本英夫、稲垣論、岩崎大、畑一成、藤坂大佑
- 10月24日 国際哲学研究センター、東洋大学白山哲学会共催「第30回白山哲学会」

2021年

- 3月6日 国際哲学研究センター、科研費プロジェクト「アリストテレス倫理学の再定位を通

- した新たな自然主義的倫理学の構想」(17H02257)共催、酒井健太郎『アリストテレスの知識論—『分析論後書』の統一的解釈の試み』書評会
- 3月 『国際哲学研究』10号刊行
- 3月 『国際哲学研究』別冊14号「日本哲学のパースペクティブ」刊行
- 3月 『エコ・フィロソフィ研究』15号刊行
- 3月 『見えない世界を可視化する「哲学地図」——「ポスト真実」時代を読み解く10章』刊行
- 3月 『現象学 未来からの光芒——新田義弘教授 追悼論文集』刊行

研究組織

研究員・研究支援者・PRA

【研究員】

- ☆ 河本英夫 文学部哲学科・教授
- ◎ 松浦和也 文学部哲学科・准教授
- ◎ 稲垣 諭 文学部哲学科・教授
- ◎ 三重野清顕 文学部哲学科・准教授
- 相楽 勉 文学部哲学科・教授
- 芦野訓和 法学部法律学科・教授
- 海野 敏 社会学部メディアコミュニケーション学科・教授
- 生貝直人 経済学部総合政策学科・准教授
- 花木啓祐 情報連携学部情報連携学科・教授
- 小瀬博之 総合情報学部総合情報学科・教授
- 大塚佳臣 総合情報学部総合情報学科・教授
- 金子有子 文学部英米文学科・准教授
- 小路口聡 文学部東洋思想文化学科・教授
- (☆=センター長 ◎=プロジェクトリーダー)

【研究支援者】

岩崎大、畑一成、藤坂大佑

【プロジェクト・リサーチ・アシスタント】

逸見周平

客員研究員 (50音順)

大崎晴地 (アーティスト)、太田雅子 (東洋大学文学部非常勤講師)、大西光弘 (立命館大学非常勤講師)、大野岳史 (東洋大学文学部非常勤講師)、岡田大助 (江戸川大学基礎・教養教育センター准教授)、沖永宜司 (帝京大学文学部教授)、加藤隆宏 (東京大学大学院人文社会系研究科准教授)、唐澤太輔 (秋田公立美術大学大学院准教授)、グレオン・コプフ (ルター大学宗教学部教授)、坂本頼之 (東洋大学文学部非常勤講師)、鈴木信一 (立教大学兼任講師)、高野孝 (有限会社豊高商事代表取締役)、武内大 (立正大学文学部教授)、田村義也 (成城大学非常勤講師)、長倉誠一 (立正大学・武蔵大学非常勤講師) 長島隆 (東洋大学名誉教授)、信原幸弘 (東京大学名誉教授)、野村智清 (秀明大学学校教師学部専任講師)、播本崇史 (東洋大学文学部非常勤)

講師)、廣野善幸(東京大学大学院総合文化研究科教授)、堀内俊郎(東洋大学東洋学研究所客員研究員)、増田隼人、武藤伸司(東京女子体育短期大学児童教育学科准教授)、村山悟郎(アーティスト・東京芸術大学非常勤講師)、八幡さくら、山口一郎(東洋大学名誉教授)、山田利明(東洋大学名誉教授)

評価委員 (50 音順)

北脇秀敏(東洋大学国際学部教授)

榊原哲也(東京女子大学教授、東京大学名誉教授)

研究成果の概要

1. 国際哲学研究センター主催「事象の世界地図に向けて」第1回研究会(東洋大学白山キャンパス6号館1階第三会議室、2020年8月8日)

※会場発表およびWeb会議システム「WebEx」を利用したリモート発表の同時開催

【提題】

河本英夫(IRCPセンター長)「民族というシステム」(ならびに企画方針)

稲垣諭(IRCP研究員)「性の変容」

野村智清(IRCP客員研究員)「宗教という社会文化」

2. 国際哲学研究センター、東洋大学白山哲学会共催「第30回白山哲学会」(東洋大学白山キャンパス6号館3階6310教室、2020年10月24日)

※会場発表およびWeb会議システム「WebEx」を利用したリモート発表の同時開催

開会挨拶:河本英夫

【研究発表】

伊藤俊介(東洋大学大学院博士前期課程)「フッサール初期時間論における統握—統握内容図式の崩壊の意味について」

藤坂大佑(IRCP研究支援者)「プラグマティズムの二つの視点」

【講演】

相楽勉(IRCP研究員)「ハイデガーと和辻哲郎にとってのカント」

【刊行物】

1. 『国際哲学研究』10号(2021年3月刊行)

2. 『国際哲学研究』別冊14号「日本哲学のパースペクティブ」(2021年3月刊行)

目次

はじめに(河本英夫)

河本英夫「東洋的フラクタル——三浦梅園の構想」

坂本頼之「身分流動からみた本性論の転換——徂徠から青陵へ」

播本崇史「西周『生性劄記』訳注(四)」

三重野清顕「和辻哲郎における歴史と解釈学」

相楽勉「ハイデガーと和辻哲郎にとってのカント」

中山純一「井筒俊彦の詩的言語論」

3. 『エコ・フィロソフィ研究』15号(2021年3月刊行)

目次

はじめに「環境への強度性の回復」(河本英夫)

【I 研究論文】

河本英夫「システムの実験か——チャイナ・コードの地経学的生態学」

河本英夫「水の夢」

唐澤太輔「南方熊楠によるナギランの発見」

田村義也「ミナカテルラ・ロンギフィラの発見をめぐって：南方熊楠の変形菌研究」

鈴木信一「動作単位産出システムの分裂と統合における質的变化」

藤坂大佑「自然—有機体の相互性と感覚の拡張：環境を巡るプラグマティズムの諸視点について」

【II 特集「新型コロナという環境」】

河本英夫「公共性の生態学的モード—新型コロナウイルス第1波(2020年1月—5月)」

畑一成「ドイツの接触跡付アプリ Corona-Warn-App の成立過程とデジタル主権の行方」

Ettore Barbagallo "Battle of interpretations and narratives at the time of the COVID-19 pandemic. A philosophical contribute"

4. 『見えない世界を可視化する「哲学地図」——「ポスト真実」時代を読み解く10章』

(河本英夫・稲垣諭(編著)、学芸みらい社、2021年3月刊行)

目次

序章 河本英夫「序章——空白のスクランブル交差点」

【I 人間・身体・生存の多型】

第1章 信原幸弘「情報とウェルビーイング」

第2章 三重野清顕「出来事と歴史の生成をめぐる試論——ライブニッツ、シェアリング、ドゥルーズ」

第3章 岩崎大「自覚なきアモータリズム——医療化する社会における死と善」

第4章 小松美彦「生命認識の捻れと逆説——ゾーエーとビオスの視点から」

第5章 稲垣諭「性というパフォーマンス——性の原則と変容」

【II 共同性・ネットワーク・現実性の変容】

第6章 河本英夫「民族という罫」

第7章 廣瀬浩司「無名の生と権力の語り」

第8章 小山裕「平等主義と暴力の基層」

第9章 野村智清「宗教的信仰の一形態である陰謀論を無毒化する」

第10章 畑一成「流れる歴史：海洋と地球温暖化」

用語集——世界の輪郭線(河本英夫)

5. 『現象学 未来からの光芒——新田義弘教授 追悼論文集』

(河本英夫(編著)、学芸みらい社、2021年3月刊行)

目次

まえがき 河本英夫

【I 現象学の未来——伝承と展開】

稲垣諭「「生きられた知」の論理とその外部——新田現象学が語らなかつたものへ向けて」

河本英夫「活動態の現象学」

斎藤慶典「世界の存在構制と自由の／という可能性」

ゲオルグ・シュテンガー（訳：増田隼人）「ヨーロッパの現象学に対する挑戦としての「自覚」？——「媒体的現象学」への歩み 尊敬する新田義弘教授に献じて」

ハンス・ライナー・ゼップ（訳：畑一成）「媒体としての人間——新田義弘の超越論的媒体性の現象学」

高橋義人「文学と哲学のあいだ——反形而上学としてのディルタイの生の哲学」

田口茂「現象学の真理論的批判から媒体性の現象学へ——新田義弘『世界と生命』をめぐって」

武内大「光と媒体——魔術的幻視の現象学」

谷徹「新田現象学と「歴史」」

丹木博一「「深さの現象学」という課題——新田義弘の歩いた思惟の道」

富山豊「現象する知の叙述——ドイツ哲学の伝統のなかのフッサール現象学と新田現象学」

永井晋「新田哲学の問い——顕現しない生命の現象学」

村田純一「近さと隔たり——多次元性と深さの現象学」

山口一郎「媒体性の現象学に向かって」

【Ⅱ 追懐——私の記憶】

ベルンハルト・ヴァルデンフェルス（訳：稲垣諭）「東洋と西洋との出会い」

鈴木琢真「新田義弘先生の思い出」

千田義光「新田先生のこと」

野家啓一「新田先生と私と「物語（り）」」

日暮陽一「回想と感謝——新田先生の思い出に捧げる」

鷺田清一「追想——「学恩」を超える「恩」」

新田義弘教授 業績一覧

あとがき

執筆者一覧